地域における
障害者自立支援機器の普及促進の取組事例

兵庫県

福祉のまちづくり研究所の取組

社会福祉法人　兵庫県社会福祉事業団

総合リハビリテーションセンター

福祉のまちづくり研究所

１．地域の概況と取組の経緯

【概況】

兵庫県は、北は山陰但馬地域から南は淡路島まで、本州をまたいでいる唯一の都道府県であり、10圏域29市12町で成り立っている。

【人口】５，５２６，５３８人（平成２８年６月１日現在）
【面積】８，４００㎢
【障害児・者の人数】
身体障害者数：２４４，３４３人　／　知的障害者数：４６，６６５人
精神障害者数：　３８，６８１人

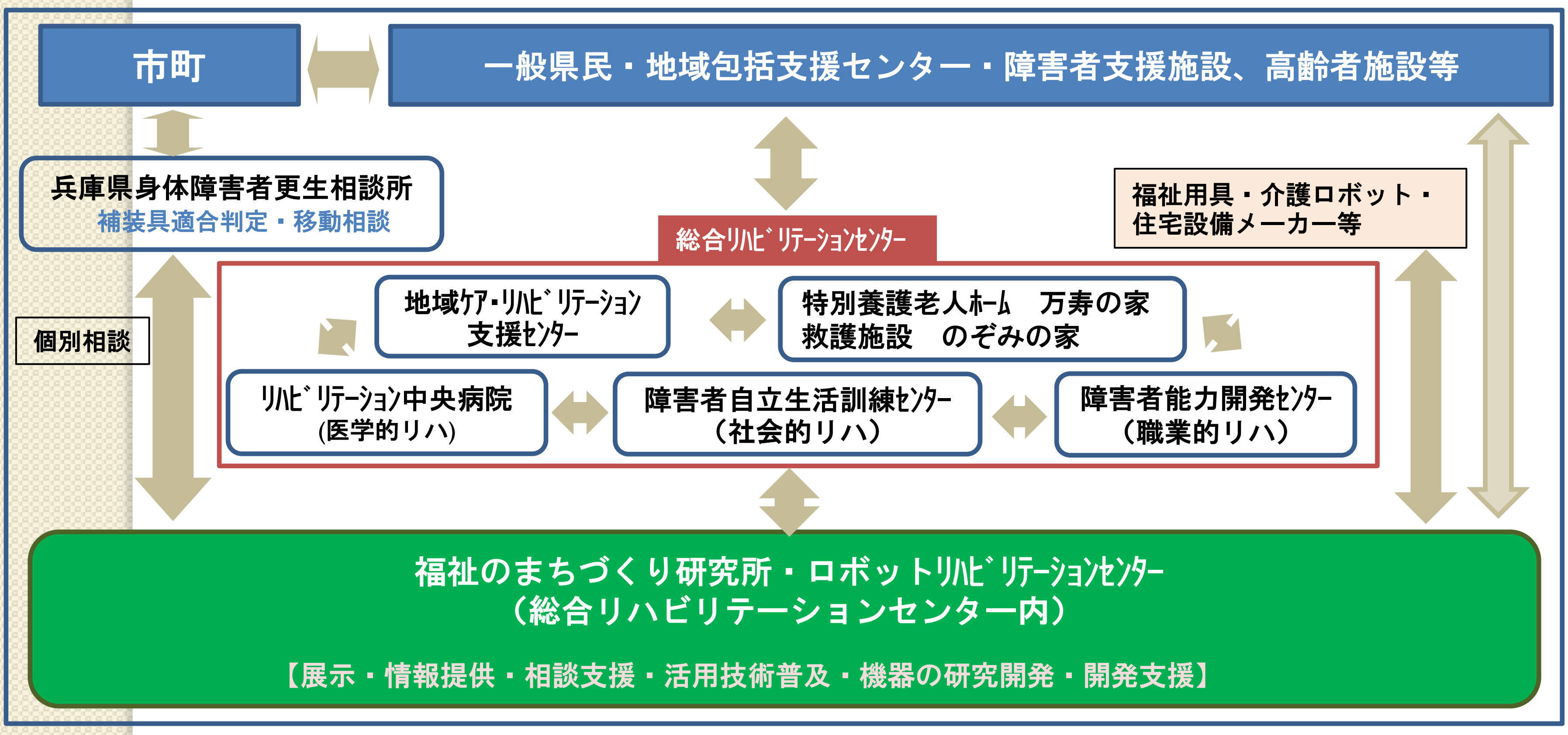
【取組の経緯】

当研究所の所在する総合ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰは、1969年「兵庫県玉津福祉ｾﾝﾀｰ」として開設。附属中央病院、昭和46年の義肢装具開発課設置以降、長年県下のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ中核施設としての役割を担い、ｾﾝﾀｰ敷地内にある社会的リハ、職業的リハ関連施設等と共に、地域の障害者ﾆｰｽﾞに対するｻｰﾋﾞｽを実施している。昭和53年には福祉用具展示場を備えた生活科学課を設置し、身体障害者更生相談所等との連携により障害者ﾆｰｽﾞに対する福祉用具・住環境改善の支援を開始する。福祉のまちづくり研究所棟を開設した平成8年には、現在の福祉用具展示ﾎｰﾙを設置。当時の介護実習・普及ｾﾝﾀｰ運営事業において地域に向けた福祉用具普及事業を本格実施する。近年では臨床ﾆｰｽﾞに基づいたﾛﾎﾞｯﾄ機器開発、また介護ﾛﾎﾞｯﾄ普及推進事業等に着手し、開発から普及までにかかわる事業に取り組んでいる。

兵庫県立福祉のまちづくり研究所

2．支援体制　～全体像～

福祉のまちづくり研究所では、総合リハビリテーションセンター内にある立地環境を活かし、臨床現場の医療福祉職や身体に障害のある利用者ニーズをもとに、研究開発をすすめるとともに、センター内各部署や研究所独自の事業展開で有するネットワークを通じて、福祉用具に関する相談支援・情報提供を行っている。また敷地内にある身体障害者更生相談所等との連携の中で、地域の重度の障害のある方々等の個別ニーズに対応した支援を行っている。



２．支援体制　～全体像（２）～

兵庫県では当研究所の他、福祉用具支援機能を備える県立但馬長寿の郷、西播磨総合ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ研修交流ｾﾝﾀｰとの定期的な情報共有（三者連携協議会）を図りながら、広く県民や関係者に向けた情報提供、相談支援、機器の活用支援を実施している。

3．福祉のまちづくり研究所の概要

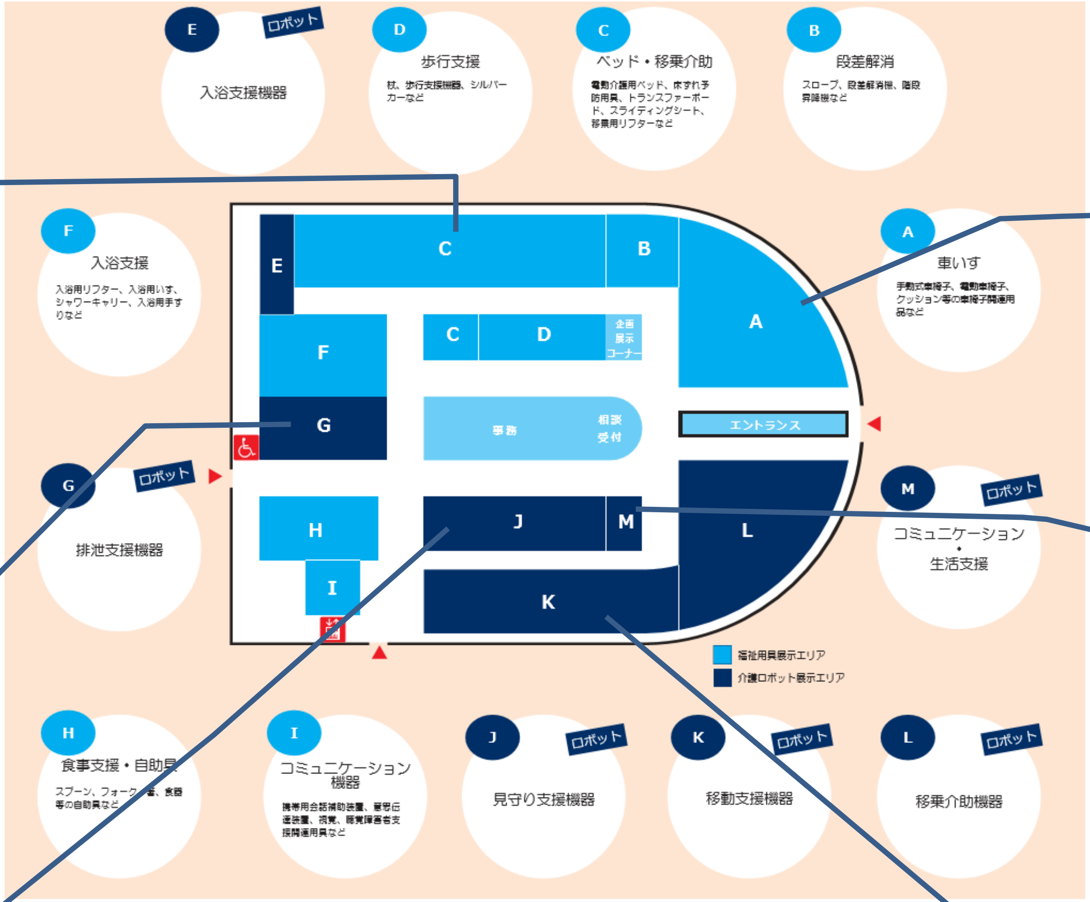
（1）福祉用具展示ホールの概況

展示数	面積	構成職員
約800点	743㎡	社会福祉士１名 作業療法士１名 相談員　４名（※非常勤） ＊多職種支援を要する相談は、 研究に従事する技師・建築士・ 研究員等も対応

【特色】

◆福祉用具・介護ロボットの常設展示や特別企画、セミナー等を通じ、関係者へ情報を提供している。
◆シミュレーションコーナーを活用し、実際の生活場面に近い環境で、福祉用具や住環境調整の相談を受けている。
◆セラピスト、社会福祉士を常勤で配置。アセスメントを通じて多職種支援を要する場合は、研究業務に従事している技師・建築士等が加わり支援を行っている。
◆民生委員などの一般市民への普及啓発をはじめ、介護職や看護職、リハ専門職などの幅広い層へ研修を実施している。

福祉用具展示ホールレイアウト



（2）研究開発・補装具製作の概況

区分	構成職員
◆研究開発 《研究ﾐｯｼｮﾝ》 ・ﾛﾎﾞｯﾄﾃｸﾉﾛｼﾞｰ ・居住支援 ・移動支援	常勤研究員 4名、技師 1名 特別研究員 4名、非常勤研究員 3名
◆補装具製作・修理	義肢装具士　　1名

【特色】

◆臨床ニーズに基づく介護リハビリロボット機器の研究開発をはじめ、障害者・高齢者の居住支援、移動支援　を研究ﾐｯｼｮﾝに掲げ研究に取り組んでいる。研究員の専門分野はロボット工学、福祉工学、福祉情報工学、機械工学、システム工学、建築学等、多岐に及ぶ。

◆補装具製作施設として義肢装具士を配置。主に筋電義手、コンピュータ制御義足等の製作・修理を行うとともに、研究員と共に研究に従事する。

４．福祉のまちづくり研究所の機能（１）

①福祉用具・介護リハビリロボットに関する情報提供

福祉用具展示ホールでの介護リハビリロボット１９点、福祉用具８００点の常設展示、また特別展示会、セミナー・試用体験会等の実施による医療福祉職、ユーザー、一般県民等への情報提供。

②福祉用具の活用と住環境の改善についてのアドバイス支援

対象者の身体機能や、活動・参加に合わせ、適切な福祉用具を提案している。また、住環境の改善に向け、セラピストと建築士が連携し、アドバイス支援を行っている。

③支援機器に関する教育・研修

医療・福祉・介護等の専門職に対し、自立支援のための支援機器の活用方法や、選択方法について理解を深める研修を行う。また、学校教員や学生に対し、福祉用具の体験を通して自立支援の視点を養う。

セミナー・試用体験会の開催

車いすｸｯｼｮﾝの選定についての相談

移乗機器の活用研修

4．福祉のまちづくり研究所の機能（２）

④重度障害のある方々等への個別ニーズに対応した相談支援
更生相談所やセンター内の各部署と連携した、技師、研究員等による重度障害のある方々への個別相談支援。

⑤補装具製作・修理の実施
補装具製作施設としての筋電義手を主とした補装具の製作・修理

⑥臨床ニーズに基づいた介護リハビリロボット機器の研究開発
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ中央病院や施設等の医療福祉職や患者・利用者の方のニーズに基づく、大学や技術メーカー等との連携による機器の研究開発。

⑦公共施設のﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ促進に向けた行政、事業者へのｱﾄﾞﾊﾞｲｽ
兵庫県との協働による施設点検助言制度の実施支援、調査研究活動を通じた建築物、道路、交通機関など福祉のまちづくり行政への政策提言や自治体の計画づくりの支援

開発中の筋電義手

電動車椅子（足操作）の評価
（セッティング）

県との協働による施設点検助言

５．福祉用具展示ホール設備・展示品

種目	数
【介護ロボット】	１９
【治療訓練用具】 投薬用具、褥瘡予防用具　等	２９
【義肢・装具】	１５
【パーソナルケア関連用具】 衣類、靴、保護用具、排泄用具、入浴用品　等	１７７
【移動機器】 杖、歩行器、歩行車、車いす、リフト、移乗補助用具、体位変換用具　等	３２６

種目	数
【家事用具】 炊事用具、食事用具　等	９６
【家具・建具・建築設備】 テーブル、いす、座位保持装置、ベッド、昇降装置、住宅部品等	８８
【コミュニケーション関連用具】 音伝達システム、警報システム 対話用機器、補聴器、表示機器 筆記具　等	７１
【操作用具】 制御用機器、固定機器、手・指の機能を補助する機器　等	２７
【環境改善機器・作業用具】	３

合計：約８００点

6．取組による効果（１）

1．障害のある方への自立に向けた機器活用に関する相談支援

2．身体障害者更生相談所、ｾﾝﾀｰ内各部署と連携した重度障害のある方々等の個別ニーズに対応した相談支援（H26年度 25件、H27年度 27件）

3．医療介護福祉専門職への福祉用具活用研修（H26年度 220名、H27年度 185名）

4．介護リハビリロボットの普及啓発セミナー・試用体験会・ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟの実施

5．補装具製作・修理等実績件数（H26年度 155件、H27年度 161件）

6．小児筋電義手ﾊﾞﾝｸの運営（ﾊﾞﾝｸからの貸出件数 H26年度3件、H27年度13件）

7．臨床ニーズに基づいた介護リハビリロボット機器等の研究開発（開発実績 H25～H27年度まで 実用新案1件、特許出願件数4件）

8．兵庫県との協働による施設点検助言制度の実施支援（H25～H27年度　15件）

技師等のよるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ機器用の補助具相談支援

小児筋電義手バンクを開設

～子どもたちの 夢・希望 実現のために～

上肢を欠損した子どもの発育に有用な筋電義手の普及を図るため、小児筋電義手バンクを開設しております。

多くの皆様方からの心温まるご寄附をお待ちしております。

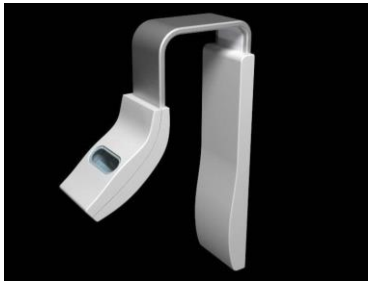
○事業の概要

1 筋電義手の提供

2 筋電義手の貸し出し

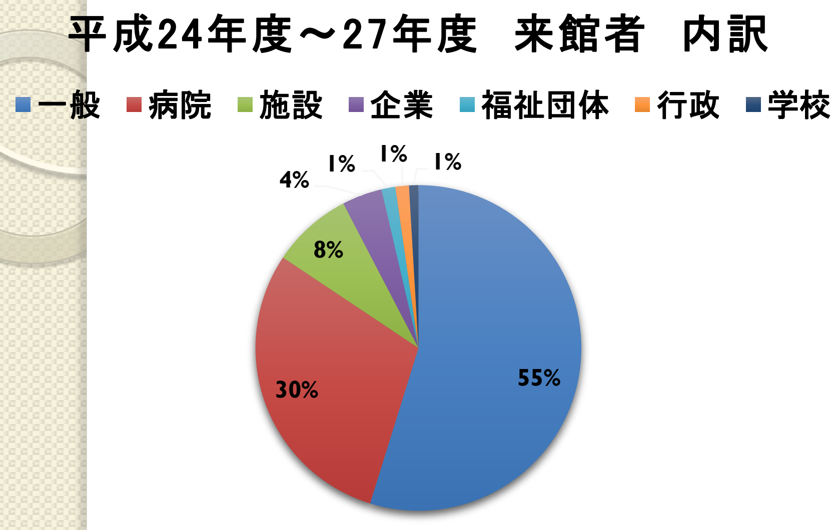
3 人材の育成

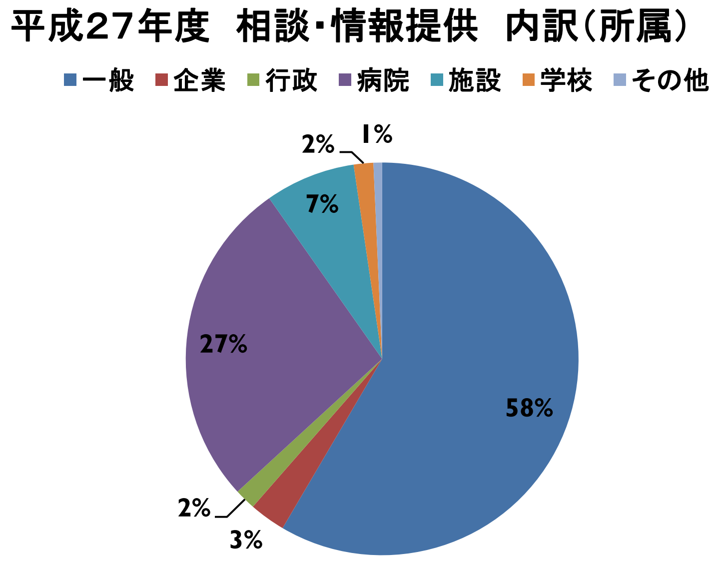
小児筋電義手バンクの運営

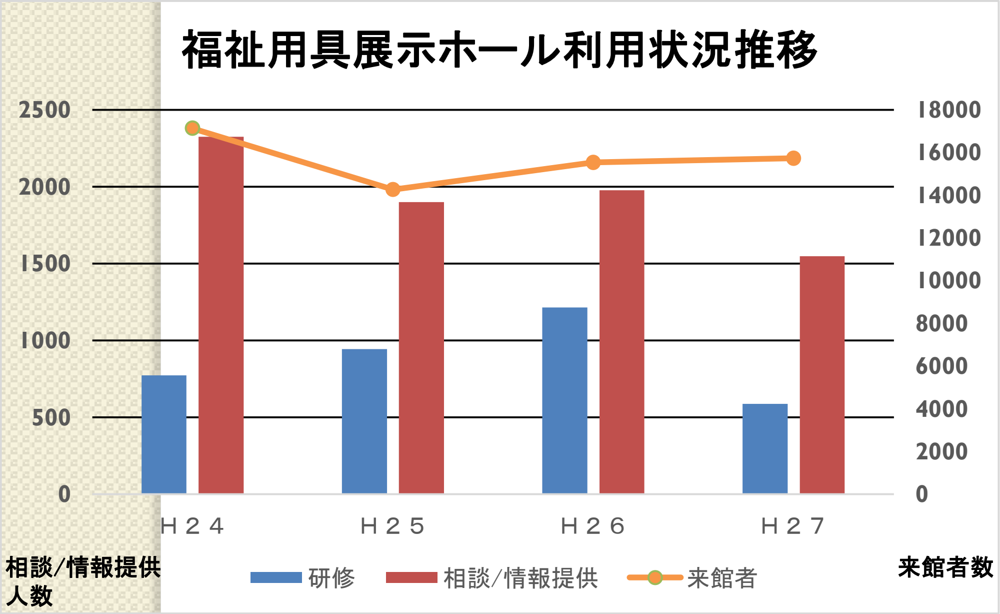


開発中の排泄支援装置

6．取組による効果（2）







平成27年度　相談･情報提供　内訳(人数)

一般	905名
企業	46名
行政	27名
病院	419名
施設	115名
学校	25名
その他	11名